

### ＜里山林整備事業の創設＞

#### 1 趣旨

森林づくりへの意識の醸成や森林と人との絆の回復、さらには野生動物との共生を図ることを目的に、地域住民が行う里山林の整備活動を支援する。(H28年度から)

#### 2 事業内容

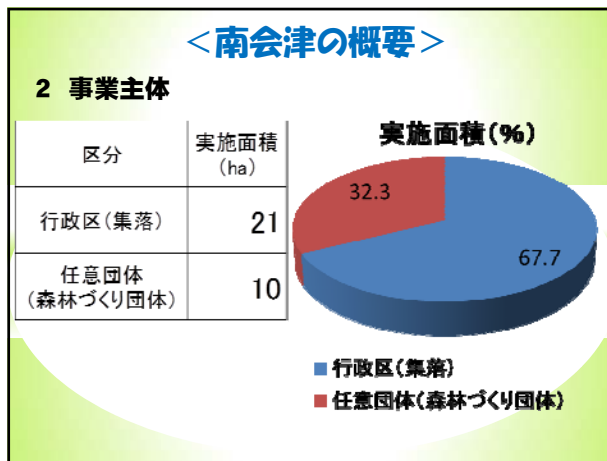
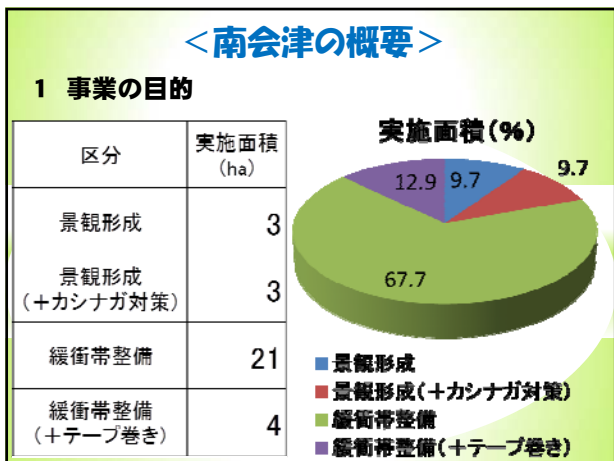
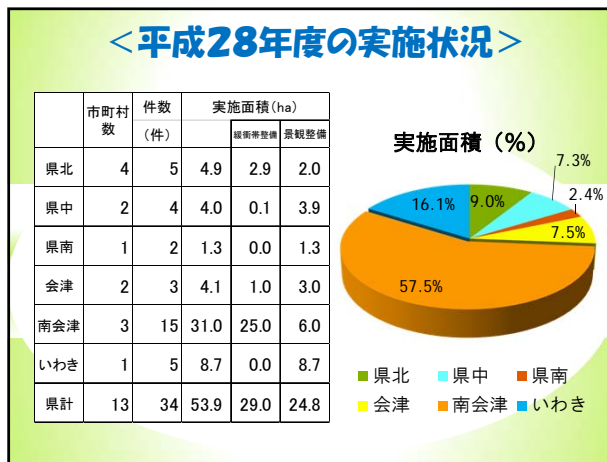
①**事業主体**:任意団体(設置規約・5名以上・県内)

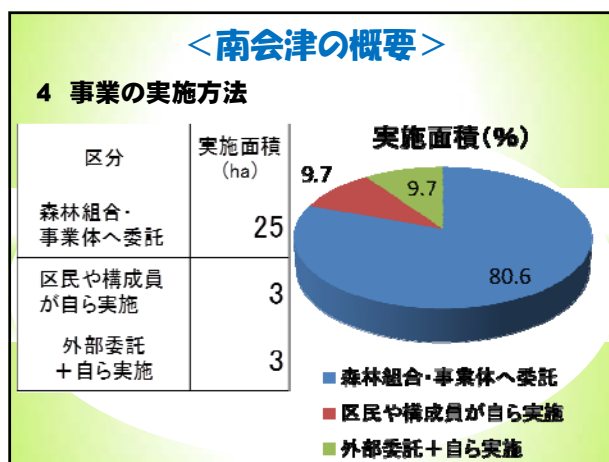
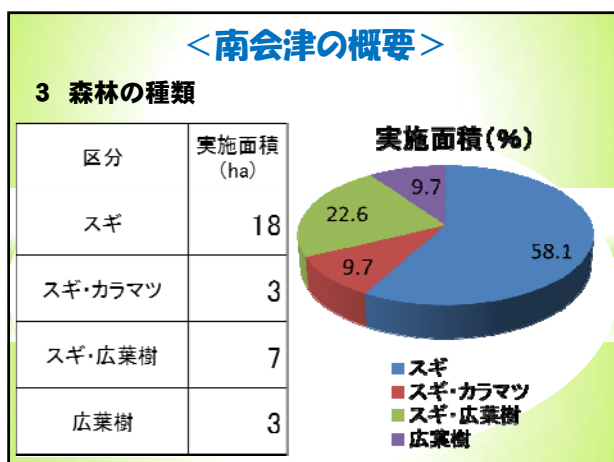
②**補助率**:定額(上限1ヘクタール当たり40万円)

③**事業内容**:○緩衝帯の設置、○景観整備、○剥皮被害防止

④**対象経費(主なもの)**:

- ◇森林整備機材購入費(刈払機、チェーンソー、鉋、鋸、鎌、ヘルメット等)、
- ◇立木の皮はぎ防止用資材の購入費、◇ガソリン等燃料費、
- ◇第三者への作業委託経費 ほか





＜森林整備の状況＞

森林づくり団体や林業事業者との現地打合せ



＜森林整備の状況＞

カシナガ被害木の伐採(下郷町)



＜森林整備の状況＞

剥皮防止用テープ巻き作業(南会津町)



＜森林整備の状況＞

緩衝帯整備状況(只見町)



＜事業主体等の意見(聞き取り)＞

1 良かった点

- 森林整備の終了した現地を見て喜んでくれた。(区民代表)
- 整備した区の隣の区から要望が出された。(森林組合)
- 区(集落)の住民と一緒に取り組むことの重要性が認識できた。(区民)

2 課題等

- 里山(住宅や農地の隣接地)は、1筆の面積が小さく所有者数が多く、施行同意書を得るのが大変だった。(区民代表)
- 森林整備の上限面積を5haまで拡大して欲しい。(区民)
- 緩衝帯整備と農業獣害対策(電気柵設置)を一体的に実施して欲しい。(区民)
- 不在村所有者が増えれば森林整備は進まなくなる。(区民)

＜まとめ(今後の進め方)＞

1 里山林への関心を持たせる

- 地域住民を対象に綺麗に整備した森林を見せよう。
- 伐採木を用材やチップ材として販売し所有者へ還元する。

2 森林整備の実施方法

- 森林の齢級や状態により①森林組合等へ委託、②区や団体自らが行う、③委託+自らが行う、などを使い分ける。

3 農業行政等との連携

- 獣害対策において専門家や農業普及部、町村、協議会等と連携し、情報の共有と関連事業の調整に当たる。

住民参加の森林づくりの推進・農林業の振興